

氏天城に採集を試み、予の請を客れて山中の蟬にも注意せられ下田に於けると同様の盛なる鳴聲を耳にしたりとの歸來の報告なれば、予は天城にもヒメハルゼミ發生するものと信じ爾來再三天城を該種の產地として算へたり。而して不幸にして之を引用せられたる士に齋藤偏理氏(1936)あり。今年7月中旬下田に於けるヒメハルゼミの今を盛りの頃予は天城登山を企て、全山を震駭せしめ居る蟬のヒメハルゼミに非ざることを確信したり。即ち天城山はヒメハルゼミの產地より削除せらるべきものとす。ヒメハルゼミと學友の耳に入りたるは實はエゾハルゼミにして、時は7月17日なりしが天城隧道より入丁池(海拔1237m)に至る間耳にするは悉く之エゾハルゼミにして、其盛なるに愕きたり。8月11日再び登山せし際は昔日の倅無く個體數夥しく減じ居たり。調査に便宜を與へられたる福井教授に深謝す。(高島春雄)

北海道にて佛法僧を聞く

去る6月19日北海道皆既日食觀測中、佛法僧の鳴聲を耳にしましたので、何かの御参考に相成るかと思存じ簡単に御報告申します。

1. 場所は北海道天鹽郡幌延村小學校々庭(日食觀測地)にて、鳴聲はその西北方の山中より聞え、その距離は大體200乃至300m或は500m位かと推察されました。
2. 日時は6月19日夜半より20日午前1時頃迄で、他の日は注意しませんでした。當夜は晴天、無風、氣温15°C位。
3. 鳴聲はラヂオで耳にしたものと全く同一。二聲の鳴聲と三聲の鳴聲とを交互にして居り、二聲を數回續け次いで三聲のを數回續けると云ふ風です。1羽のみの鳴聲かと思はれました。

(東大理學部天文學科 古畑正秋・黒岩五郎)

地中海のオサガメ

1935年10月16日にイタリアの Salerno 灣の Ploicastro で漁夫が雌のオサガメを発見し捕獲した。鼻先から甲の後端まで210m、ビスケー灣の沿岸では時々見受けるが地中海に入るのは極く稀である由。

(谷津直秀)

紅海の臨海實驗所

カイロー大學附屬臨海實驗所に就ては動物學雜誌47卷252頁(1935)に簡単に紹介して置いたが、その所在地の Ghardaqa の位置を知るのに困難してゐた。

ところが昨年私が紅海を北上してゐた際その位置を確めたから茲に報告することにする。

Ghardaqa は普通の地圖に記入してない。航海中船長室の海圖にも見出すことが出来なかつた。船長が苦心して或る報告書を調べてくれて漸く正確に位置がわかつた。紅海の北端は東のアカバ灣と西のスーエズ灣となつてゐる。スーエズから南320kmスーエズ灣に正に入らうとする所に Gadwan 島と Jifatan 島がある。この Jifatan 島に近いアフリカ大陸に Ghardaqa がある。實驗所の address は The Marine Biological Station, Ghardaqa, Red Sea District である。

他の熱帯の海でも底は0に近いのに紅海では年中底が

